

動画特典：『文章の読み取り力チェックテスト』

いつも動画をご覧いただきありがとうございます！

このテストでは、お子さんが**文章を正しく読み取れているか**を、ご家庭で簡単にチェックできます。

ただし、見るのは「何問正解したか」だけではありません。

どの問題を、どのように間違えたのか。

そこを見ることで、お子さんが文章を読むときの「読み方のクセ」が見えてきます。
たとえば、

- ・ 知っているキーワードだけを拾ってしまう
- ・ 「すべて」「だけ」などの小さな言葉を読み飛ばしてしまう
- ・ 本文に書いていないことを、自分の想像で補ってしまう
- ・ 言葉が言い換えられると、別の意味だと思ってしまう

こうした読み方のクセは、国語のテストでの失点につながりやすいものです。

今回の問題は、難しい知識を問うものではありません。

「文章に書いてあることを、そのまま正確に読み取れているか」

を確認するための問題です。

ぜひお子さんと一緒に挑戦してみてください。

なお、解答・解説のあとには、間違えた問題からわかる「読み方のクセ」も簡単にまとめています。

【ルール】

- ・ **第1問～第4問：**

文Aと文Bを読み、「2つの文が言っている意味は同じか、違うか（○か×か）」を答えましょう。

- ・ **第5問：**

【例文】と「同じ意味を表している文章」を、(ア)～(エ)の中から1つ選びましょう。

【問題編】

第 1 問

文 A：昆虫のからだは、頭部・胸部・腹部の 3 つに分かれており、足はすべて胸部から生えている。

文 B：頭部や腹部から足が生えている昆虫は存在せず、足が生えているのは胸部だけである。

【問】文 A と文 B の意味は同じですか？（○ ・ ×）

第 2 問

文 A：聖徳太子は、推古天皇の摂政となり、冠位十二階や十七条の憲法を定めた。

文 B：聖徳太子は、摂政である推古天皇と、冠位十二階や十七条の憲法を定めた。

【答】文 A と文 B の意味は同じですか？（○ ・ ×）

第 3 問

文 A：6 の倍数は、必ず 2 の倍数でもあり、3 の倍数でもある。

文 B：2 の倍数でもあり 3 の倍数である数は、すべて 6 の倍数である。

【答】文 A と文 B の意味は同じですか？（○ ・ ×）

第4問

文A：植物は、日光を受けることで光合成を行い、酸素を出す。

文B：植物が酸素を出すのは、日光を受けて光合成を行ったときだけである。

【答】文Aと文Bの意味は同じですか？（○・×）

第5問

【例文】

人間は、文字を使って経験を記録することにより、直接会ったことのない人の知識すら自分のものにすることができる。

- （ア）文字を使って自分の経験を記録した人間だけが、直接会ったことのない人に自分知識を伝える資格を得ることができる。
- （イ）人間は、直接会ったことのない人の知識を自分のものにするために、まずその人と直接会って文字で経験を記録しなければならない。
- （ウ）文字による経験の書き残しがあるおかげで、人間は一度も顔を合わせたことがない他人の知識であっても獲得することが可能である。
- （エ）直接会ったことのない人に自分の知識を横取りされないために、人間は文字を使って経験を記録するようになった。

【答】例文と同じ意味の文章はどれですか？（ア・イ・ウ・エ）

【解答と解説】

第1問：正解【○】

解説：文Aの「足はすべて胸部から生えている」を、文Bでは「胸部からだけ生えている（他からは生えていない）」と言い換えています。表現は違いますが、伝えている事実は全く同じです。

第2問：正解【×】

解説：主語も使われている単語も全く同じに見えますが、「摂政（政治を助ける役職）」が誰なのかが変わっています。文Aは「推古天皇の摂政となり」なので 摂政になったのは聖徳太子。文Bは「摂政である推古天皇と」 摂政なのは推古天皇。
文の構造(修飾関係)を正しく読めていないと、同じ文章に見えて騙されてしまう問題です。

第3問：正解【○】

解説：「6の倍数」はすべて2の倍数であり3の倍数でもあります。また、2の倍数かつ3の倍数である数は、必ず6の倍数になります。つまり、両者は同じ数の集まりを表しているため、同じ意味になります。

第4問：正解【×】

解説：文Aは「日光を受けて光合成を行うと、酸素を出す」という説明です。一方、文Bは「酸素を出すのは、日光を受けて光合成を行ったときに限る」という意味になります。「～すると」と「～するときだけ」では、意味の範囲が変わるため、同じとはいえません。

・

第5問：正解【ウ】

解説：例文のポイントは、「文字を使って経験を記録する」→「直接会ったことのない人の知識も、自分のものにできる」という関係です。

では、それぞれの選択肢を見てみましょう。

【ア】×

「文字を使って自分の経験を記録した人だけが、直接会ったことのない人に自分の知識を伝える資格を得る」とあります。例文は、「他人の知識を自分のものにする」という話です。

一方、アは「自分の知識を他人に伝える」という話になっています。

「文字」「経験」「知識」というキーワードは似ていますが、知識を「得る」のか「伝える」のかが逆になっています。

【イ】×

「直接会ったことのない人の知識を自分のものにするために、まずその人と直接会って」とあります。ここは明らかに矛盾しています。

例文が言っているのは、直接会ったことのない人からでも、文字によって知識を得られるということです。

それなのにイでは、「まず直接会う必要がある」ことになっています。

【ウ】○

「文字による経験の書き残しがあるおかげで、顔を合わせたことがない他人の知識であっても獲得することが可能である」とあります。

これは例文の、「文字を使って経験を記録する」→「直接会ったことのない人の知識も自分のものにできる」という関係を、そのまま言い換えています。

表現は変わっていますが、伝えている内容は同じです。

【エ】×

「直接会ったことのない人に自分の知識を横取りされないために」とあります。

しかし、例文には「知識を横取りされないため」という理由は一切書かれていません。

これは、本文に書かれている内容ではなく、**自分で勝手に理由を付け加えてしまった選択肢**です。

この問題で大切なのは、「言葉」ではなく「関係」を見ること

アは「知識を得る」と「知識を伝える」が逆。

イは「直接会わなくてもいい」が「直接会わなければならない」に変わっている。

エは、本文にない「横取りされないため」という理由を付け加えている。

つまり、選択肢を見るときは、

「本文と同じ言葉が使われているか？」ではなく、

「誰が・何を・どうする、という関係まで同じか？」

を確認することが大切です。

【診断結果】間違えた問題からわかる「お子さんの読み方のタイプ」

お子さんはどの問題を間違えましたか？（または第5問でどの選択肢を選びましたか？）
間違えたパターンによって、お子さんがテストで失点してしまう「読み方の癖」がわかります。

①【第1問や第3問で「×」を選んだ子】

→ 「言い換えに弱い・見た目重視」タイプ

- ・ 特徴： 「同じ言葉が使われているか」「文章の形が似ているか」で判断する癖があります。言葉が言い換えられたり、文の順番が変わったりすると、「別のことを言っている」と判断してしまいます。
- ・ 今回のポイント： 第1問の「すべて胸部から」と「胸部からだけ」のように、表現が変わっても意味が同じ場合があることに気づけていません。
- ・ このタイプの注意点： 入試では、本文と選択肢で同じ言葉がそのまま使われるとは限りません。「言葉」ではなく「意味」を比べる力が必要です。

②【第2問で「○」／第5問で「ア」を選んだ子】

→ 「キーワード飛びつき・文の関係を見落とす」タイプ

- ・ 特徴： 「聖徳太子」「推古天皇」「摂政」など、知っているキーワードが並んでいると、「同じ話だ」と判断してしまいます。
- ・ 今回のポイント： 大切なのは単語そのものではなく、「誰が・誰に・何をしたのか」という文の関係です。
- ・ このタイプの注意点： 国語だけでなく、社会・理科の正誤問題や、算数の文章題でも、「主語や条件が入れ替わっている引っ掛け」に注意が必要です。

③【第4問で「○」／第5問で「イ」を選んだ子】

→ 「早合点・細部を読み飛ばす」タイプ

- ・ 特徴： 文章全体を最後まで確認する前に、「だいたいこういうことだろう」と判断してしまう癖があります。
- ・ 今回のポイント： 第4問の「～のときだけ」のような意味を限定する言葉や、第5問（イ）の「直接会ったことのない人」と「まずその人と直接会って」という矛盾を見落としています。
- ・ このタイプの注意点： 「分かっていたのに間違えた」という失点が起こりやすいタ

イプです。特に、「すべて・だけ・必ず・まず・直接」などの小さな言葉を丁寧に読むことが重要です。

④【第5問で「エ」を選んだ子】

→ 「本文にない理由を足してしまう」タイプ

- 特徴： 本文に書かれていることだけで判断するのではなく、「きっとこういう理由だろう」「こういうことを言いたいのだろう」と、自分の知識や常識を使って意味を補ってしまう癖があります。
- 今回のポイント： 「知識を横取りされないため」という理由は、本文には書かれていません。本文に書いてある事実と、自分が想像したことを分ける必要があります。
- このタイプの注意点： 説明文では、本文にない理由や気持ちを勝手に加えると、選択肢問題で簡単に引っかかります。

⑤【全問正解だった子】

→ 「意味と文の関係を正確に読める」タイプ

- 単語が同じかどうかだけでなく、文全体の意味や「誰が・何を・どうする」という関係まで確認できています。
- また、「すべて」「だけ」などの条件を表す言葉や、本文に書かれていない情報にも注意できています。
- この読み方は、国語の読解問題だけでなく、社会・理科の正誤問題や算数の文章題でも役立つ力です。

テストで本来の力を発揮するために

いかがでしたでしょうか？

もし間違えてしまったとしても落ち込む必要はありません。

今回見ていただいたのは、文章を読むときの「クセ」だからです。

そして、この読み方のクセは、正しいトレーニングを続けることで少しずつ変えていくことができます。

たとえば、

- キーワードだけを拾ってしまう
- 「すべて」「だけ」などの条件を読み飛ばしてしまう
- 本文に書いていないことを、自分の想像で補ってしまう
- 言葉が言い換えられると、別の内容だと思ってしまう

こうしたクセに気づかないまま、ただ問題をたくさん解いていても、なかなか改善しないことがあります。大切なのは、「何問解いたか」ではなく、「どう読んで間違えたのか」を確認することです。

「うちの子が、どんな読み方をしているのか知りたい」

「家庭でどう声をかければ、読み方を直していけるのかわからない」

という方は、ぜひ一度無料個別相談・体験授業をご利用ください。

お子さんの実際の答案や解き方を見ながら、

どこで読み間違えているのか、そして何を変えていけばいいのかを一緒に整理します。

ご希望の方は、下記リンクよりお気軽にお申し込みください！

▼ [無料個別相談・体験授業のお申し込みはこちら]

→ <https://press2u.com/private-teacher/>

